會報

昭和六年六月　7　日本山岳會

山麓民の氣象觀測

何處の土地へ行つても、必ず其地方獨特の氣象に關する昔からのいひ慣はしはある。現代の科學を超越したものではあゐが、ラヂォや新聞の天氣豫報を知る事の出來ない山間僻地にはその土地の氣象觀測方法が重要なる位置を占むるものである事は疑はない。

以下に列記せるものは穗高、笠、燒岳の高山に圍まれたる飛騨上寶村の人々に用ひられる觀測法であつて私が去る四月下旬槍、穗高方面に行つた時、同行した上寶村の著名な山案内者十名より聞いたものを書記るしたものである。常に雲の流れを眺めつゝ、山で生活する人々の言葉は又時折山へ行く私達にも非常なる參考となるべきものがある。

燒岳の噴煙の流れる方向によつて天候を豫測する事は古くから耳にしてゐた。又、雲の動きにも留意してゐた。村人の言葉には他の地方にも共通するものもあらう。又正反對な場合もあらう。然し私は此處には飛騨上室地方に範圍を限り、各項に互つて批判を加へず、やゝ不明と思はれるものに簡單な說明をしたのに過ぎない。

山へ行くものに僅かでも參考になれば幸ひであり、又かゝる研究が各地方に於て行はれる事を希望してやまない次第である。

◇

大荒れ三日なし、晴天三日なし。

朝燒が白くなれば晴、黑くなれば必ず夕立なり。

入り雲北へ行けば惡し。

ミズマサ(鱗雲)は雨の兆。

雲一本細く棚引くはミズマサの兆

朝の雲海の霧足がそろへば晴。

霧深く谷にたちこもる時は晴。

山が暗く霧が多い時は雨短し。

雨中霧が山を包まず、高い時は長雨の兆。

嵐の時、急に晴れ又降り出すは長雨の兆。

夜あがりに長天氣なし。(午后より除々によくなり、夕方迄にあがる時はよしとす)

毎日襲來する夕立の時間が早くなるとヂブリ(長雨の意)

毎日の夕立の時間が遲くなるとあがる。

朝雨は晴

朝雨と女の涙に驚くな

朝雨と嫁の腕まくりに驚くな

◇

朝虹は雨、午后の虹は晴。

星の數多く見ゆる、光の濃い時は惡し。うすく少い時はよし。

山が遠く見ゆる時は晴。

遠山が近くに見える時は惡し。

川水が急に減ると雨。

◇

岳に雪煙多い時は晴天長續きせず

岳の風強く、早い時は長晴せず。

ザレに霧がわくと雨の兆。(少さな水の流れる澤)

◇

笠ケ岳の頭に雲僅に懸れば、二、三時間後に穗高は曇る。

燒岳の噴煙が

東へ倒れると晴。

急に西北へ行くと惡し。

西へ行くと風起る。

少い時は天氣よし。

多い時は惡し。

山頂を卷く時は風模樣後雨。

◇

室内が堪く煙ると次の日惡し。

飯が堪くふく時は惡し。

煙草の煙を嫌ひな者がうまがる時は惡し。

小屋の木が乾てはぢける時は惡し

カギヅルの棒が堪く燒ける時は惡しくあまり燒けない時は晴(圍爐裡の上にある自在鍵)

◇

蟲類の騷ぐ時は夕立あり。

青蠅の多くたかる時は夕立あり。

蟬が雨の晴間に鳴くと、雨はあがらない。

雨があがつて、よく乾いてから蟬か鳴く時はよし。

雪蟲の堪く多い時は惡し。

◇

鯖の腹は砂の多い時は水の出る兆

鯉のよく出る時はよくない。

蛇の多く出てゐる時は夕立あり。

◇

朝鳩鳴けば川越えするな(水の兆)

小鳥の早朝より騷ぐ時は惡し。

雷鳥の騷ぐ時惡し。

朝鳶鳴いたらその日は雨降り。

鷹が澤山飛ぶ時惡し。

夜鷹が夜ほえると晴。(雨中でも)

トチハカリ(啄木鳥)が堪く鳴く時は惡し。

ミズコイドリ(ヒドリ)が鳴けば雨

梟(フクロ)の鳴聲

ノリツケホセホホホー　晴

ノリツケ　惡し

ホロー、ホロー　惡し

鶏が夕方早く巢に入れば晴。

鶏が遲く迄餌をとると惡し。

◇

村で子供がひどくゲラックと惡し(騷ぎ廻る意)

雷の早く鳴る年は秋霜早し。(七ケ月日といふ)

氣温の高い時は惡く、低い時は晴

◇

申酉寒さに、戌ぬくと。(サル、トリの日は寒く、イヌの日總じてよく暖い)

卯辰の雨は巳であがる。

卯辰の雨で巳で荒れて午のオンボでふりたてる。(巳の日が降ると次の日も又荒れる意)

入り降り照り八せん(八せんの入りの日に降れば晴が多い)

キノイネに降ると晴が多い。

キノイネに降れば六十一日降る。(長雨の兆)

キノイネに降るとも寅の日がよければ晴が多い。　角田吉夫

六月十二日講演會
於赤坂溜池三會堂
午后六時半會場

會務報告

五月七日・評議員會

出席　評議員七名　幹事七名

一、六月中旬開催すべき講演會の件
一、六月下旬開催すべき第五十一回小集會の件
一、二十六年一號編輯に關する報告
一、冠幹事大町營林署長と面談の結果冷ノ池に山小屋建設のこと尙可能性あるを以て形勢を見つゝ實現に努力すること、せり。冠一任
一、財團法人認可ある迄現在の會則を曩きに立案せる寄附行有案と略同樣の經過的會則に改正する件承認せられたり。

退會者

昭和六年五月五日付
（一〇四二）福島縣　兼谷護郎

雪崩調査表

關西研究部に於て作成せる雪崩調査表は「山岳」第廿六年一號と同封し會員に送附する筈の所、其の後同用紙の枚數を調査せるに全會員に送附する事は不可能なるに就き、希望者は事務所宛て御申込みを乞ふ。

現在數

氣象報告用紙	一〇〇〇枚
同　記入樣式	七六枚
雪崩報告用紙	四五〇枚
同　記入樣式	一〇〇枚
氣象報告參考用紙	一六〇枚
同記入樣式	一〇〇枚

體育展覽會出陳目錄

去る三月十五日より廿九日までお茶の水、東京科學博物館に於て開催せられたる文部省主催體育展覽會に本會より出陳せるものゝ品目は左の通りである。括弧内は出品者氏名。

一、秩父宮殿下御撮影・ツエルマットより見たるマツターホルン
一、ゴルネル氷河畔の秩父宮殿下
一、リスヨツホに於ける秩父宮殿下
一、ウオルター・ウエストン氏小照
（以上寫眞四點松方三郎）
一、劔谷寫眞一葉　（冠松次郎）
一、マウントアルバータ
寫眞二葉　（槇有恒）
一、立山劔岳石膏模型　（本會）
一、本會々員分布表　（同　〃）
一、本會新舊會員章　（同　〃）
一、外國山岳會員章　（松方三郎）
一、ピツケル　一本　（同　〃）
一、ルツクサツク　一　（武田久吉）
一、登山靴　二足　（武田、松方）
一、木底靴　一足　（槇有恒）
一、登山綱試驗表一葉　（黑田正夫）
一、切斷せる登山綱　（黑田正夫）
一、カンジキ　一足　（冠松次郎）
一、羚羊皮製足袋　（同　〃）

尙右の外澤山の品目が集まつたが會場が狹かつたゝめ陳列することが出來なかつたのは遺憾であつた。

關西小集會

三月七日午後七時半から大阪北區堂ビル五階中山文化研究所講堂で開催。司會者榎谷幹事。東京から角田幹事が出張して「山小屋に就いて」といふ題で約一時間半に亘る講演があり、引き續き日本とスキスとの山小屋に關する數十枚のスライドを以つて一つ一つの說明が加へられた。講演後別室で茶話會を開き、角田幹事を中心に、さまゞ〳〵の山に關する課題や漫談が持ち出された。東京、京、阪、神に於ける近況、山小屋の設備、經營、宿泊料、冬期使用の注意、雪崩の防禦等々。それからアライバミール、エクスペディシヨンの話二十九、三十年度の力峯探險隊の話本年度のバウアー隊とスマスイ隊とに本會製作の雪崩カードを送つて、リポートを要求すること、長谷川氏が千島旅行から歸られたら、關西でもカシユミールの幻燈講演を依賴すること、その他次から次へと幾らでも話の種が出て來たが、角田幹事歸京の時間の都合で十時二十分に閉會した。來會者會員二十五名、會員外八名。

有志晩餐會

會報五號に發表した有志晩餐會は暫く中絶してゐた後のせいか參會の通知を寄せられた向は余り多くなかつた。しかし以前この會合によく出席された會員や近年入會された會員で、四月十六日夕刻品川舊東海道入口の「くまあづま」に集まつた參會者は十八名であつた。樓上から東京灣の靑波をへだてゝ望まれる筥の房總の山々は春霞模糊としてゐたが、夜の幕が下りて着席配膳となれば、房總半島などは何處かへケシ飛んで懷舊談やら皮肉やら憤慨やらが嵐のごとく湧き上つた。そして一同歡をつくし、次回の世話人を指名して十時頃散會した。

尙夜の出席者は、星野光之助、飯塚篤之助、加藤保二、木村鑛吉、小島久太、近藤茂吉、槇有恒、松井幹雄、松本善二、三枝守博、高野鷹藏、田部重治、高頭仁兵衞、島山悌成、角田正夫、吉田竹志、吉田次男、藤島敏男の十八名。次回の世話人は松井、吉田竹志、藤島。

山岳バツクナンバーの頒布

會報四號に發表しました「山岳」のバツクナンバーの賣價引下は幸ひにして會員各位の歡迎を得て陸續と御注文に接しました。引下げた定價は引續きそのまゝですから尙御申込下さるやう希望致します。本號にも改正定價表を載せておきました。

購入圖書

G. R. de Beer. Early Travellers in the Alps. 1930. London. Sidgwick and Jacson, Ltd. 10/6.
Der Schnee-Hase.Jahrbuch des Schweizerrischen Akademischen Ski-Clubs. 1930.
Inaka. by the Bell Goat. Vol XIII. XIV. XV. XVII. XVIII

新着圖書

日本地理大系海外發展地篇　改造社
山に懇ふ　河田楨著　山と溪谷社
山と雪　第七號　山と雪の會

旅行　六十二號　東京旅行クラブ
アミーバ　三ノ一　生き物趣味の會
岳友　七十七號　日本岳友會
信濃山岳會報　昭和六年一號　同會
會報　第八年第四號　關東山岳會
山の旅　二ノ四及五　山の旅會
山と溪谷　七號　山と溪谷社
地震　三卷三號　地震學會
ツーリスト　十九年五號　JTB
Club Alpino Italiano. Revista Mensile. No. 2&3.
Sierra Club Bulletin, Feb 1931.
Die Alpen. Vol VII. No. 4
Natural History. March-April. 1931.
The Prairie Club. Bulletin. No. 205.
The Mountaineer. Vol XXII. No. 6.
Appalachian Mountain Club Bulletin. Vol XXIV No. 8.
Trail and Timberline. No. 144.
The Scottish Mountaineering Club Journal Vol 19. No. 3.

圖書室開室日當番

六月
一　日　木暮　三　日　槇
五　日　松方　八　日　松本
十　日　鳥山　十二日　角田
十五日　浦松　十七日　渡邊
十九日　藤島　廿二日　藤田
廿四日　冠　廿六日　木暮
廿九日　槇
七月
一　日　松方　三　日　松本
六　日　鳥山　八　日　角田
十　日　浦松　十三日　渡邊
十五日　藤島　十七日　藤田
二十日　冠　廿二日　木暮
廿四日　槇　廿七日　松方
廿九日　松本　卅一日　鳥山

圖書室は右の日の午後五時半頃より開いております。市電虎ノ門停留場のすぐ前、不二屋ビルの三階三〇七號室です。地階で簡單な食事も出來ます。前號所報の通り幻燈スライドの整理も出來ましたし映寫幕も購入しました。集合室でさゝやかな幻燈會なども催したいと思つてゐます事務所や學校の歸へりに會員各位の來室せられんことを希望致します。

圖書基金申込會員氏名

東京
細川加茂(一口)山川　默(二口)
三技守博(一口)松方三郎(二口)
高野鷹藏(一口)岡田喜一(一口)
加藤保二(一口)辻本滿丸(一口)
小島久太(二口)近藤茂吉(二口)
目黒四郎(二口)大橋進一(一口)
藤島敏男(一口)山田　力(一口)
木村鐵吉(一口)酒井忠一(一口)
角田吉夫(一口)飯塚篤之助(二口)
大谷光明(一口)高木伊八(三口)
林　悌助(一口)若林祐次郎(一口)
石塚秀次郎(一口)田部重治(一口)
山内二郎(一口)松本善二(一口)
高橋良之(一口)吉田竹志(一口)
柴田潤藏(一口)松宮三郎(二口)
槇　有恒(一口)田中管雄(一口)
田中喜左衞門(一口)桑原武夫(一口)

兵庫
毛馬新次郎(一口)別宮貞俊(二口)

滋賀
井花伊左衞門(一口)

石川
藤岡鍵藏(一口)

熊本
北田正三(二口)

小樽
岡本三男(一口)

計　四十一名　五十二口

大阪
今村幸男(一口)

京都

立山累年氣象觀測成績

大正十一年に立山觀測所が設けられてから昭和四年まで八年間の七、八兩月に於ける觀測結果が同觀測所所管の伏木測候所から出た。各種の氣象要素について可なり精密な觀測成果がでてゐるから、いろいろの意味で問題の立山地方の氣象狀態を研究する上には極めて大切なものであらう。特別觀測として掲げられた伏木、芦崎、藤橋、弘法、室堂、頂上の降水量の垂直分布も面白いが、最低寒暖計を放置して各冬季間の最低氣温の極をとつたものは意味深く見られる。

年　次　立山觀測所　立山頂上
大正十一年—十二年　—16.8　—28.5
同　十二年—十三年　—16.5　—31.6
同　十三年—十四年　—15.7　……
欠測
同　十四年—十五年　—11.8　—26.2
昭和　元年—二年　—14.9　—25.0
同　二年—三年　—14.2　—25.8
同　三年—四年　—19.0　—29.2
同　四年—五年　—15.5　—25.7

なほ地温の毎日觀測が大正十一年には缺けてゐるのに累年表にはこの旨が斷つてなかつたり、その他二三整備の行き届かぬところのあるのは遺憾であるが、ともかくも同地方氣象問題解決の一つの鍵を與へられたことについては伏木測候所の努力に感謝すべきである。今後は冬季觀測、全年觀測へとこの事業が追々擴充されて行かれるやうに願ひたい。

また中央氣象臺が今冬一月一日から二月十二日まで富士山頂で行つた冬季觀測の結果が氣象集誌の五月號に速報せられてゐるが、一月中の平均氣温は　—15.97で樺太敷香の累年一月平均には及ばないが、同二月よりやや下つてゐる。また一月中の最高氣温の平均は　—12.46最低氣温の平均は—19.79最低の極は—35.5（1月10日）となつたゐる。加納一郎

日本北アルプス登山協議會

鐵道省長野運輸事務所長の發起にかゝるこの協議會は本年五月七日松本市に於て開催された。長野縣內務警察學務の三部長、松本市長、山麓四村長、三警察署長、二營林署長、信濃山岳會役員、旅館温泉山小屋及案內組合、商工會議所、郵便局長、鐵道自動車代表者等參會者九十三名に上り外に富山縣より電氣局、黑部鐵道及山岳會代表三名參加した。

九時開會、縣當局其他數氏の講演があり、これを終つてから參會者を小委員會に分け各々關係事項を討議した。各方面より提案審議された事項の內主なるものを摘記すれば左の通りである。

○山案內に關する事項

1 案內の管理統一料金引下（研究）
2 山案內營業取締規則制定（研究）
3 山案內の改良（不作法、不案內、不整頭、山岳知識不足、特約小屋への强制、地方色缺如）（注意）
4 山案內の腕章を定むる件（可決）
5 カード又は手帳の制定（考慮）

○山小屋旅舍賣店に關する事項

1 槍ケ岳附近に官設小屋を殺生小屋附近に完備せる山小屋を設置の希望（研究）
2 外國人誘致施設（承知）
3 ラヂオの施設（同右）
4 通信用掲示板の設置（同右）
5 案內料及宿泊料の値下（約一割內外引下に決定）
6 待遇改善、茶代廢止、宿泊料掲示の希望（承知）
7 賃貸天幕、公德販賣小屋を設くることの希望（研究）
8 寢具の改良（承知）

○交通に關する事項

1 登山路の里程及び所要時間の調査發表を希望す（承知）
2 道標の完成（同右）
3 信賴すべき登山地圖作製（同右）
4 汽車電車自動車の增發（研究）
5 上高地行自動車賃の引下（研究）
松本中の湯間二圓二十錢とす
6 中央線に三等寢臺連結（不可能）
7 汽車中にて天氣豫報を通知する外各驛に掲示すること（承知）

以上各項の討議を終はり官廳關係者退席後信濃山岳會々長を座長に推し「日本アルプスの國立公園達成促進に關する建議案」を滿場一致を以

て可決し協議會は閉ぢられた。

……

右は當日協議會に出席された松本在住本會々員矢澤米三郎氏を煩はした報告に基いて記述したものである

審議された事項は前掲のものゝみでも二十項の多きに達し、その内には委員會に於て可決されたもの或は關係者間に於て承認されたものが尠からずある。また今後の研究に俟つものも二三にして留らない。本年度の協議會に於て可決承認された事項が實現されるならば登山者の受ける利便は蓋し甚大なるものがあらう。參加者の顔觸から見ても最も強い實行力を有してゐると思はれるこの協議會は明年度以降毎年四月開催されることに決定した趣である。吾人はその將來に大きな希望を懸けると共に參加者各位が登山者のために力を竭されんことを切望してやまない。

陸地測量部新刊地圖目錄

新版　五面

一萬分一　大阪近傍12（戸ノ内）
二萬五千分一　松山近傍10（三津濱）
五十萬分一輿地圖　青森　根室
二十萬分一　航空圖　東京

修正及鐵道補入版　二十面

一萬分一　東京近傍18（中野）
二萬五千分一　横濱近傍9（戸越）
沼津近傍3（佐野）京都近傍10
京都西北部11（京都西南部）
青森弘前近傍11（黒石）23（弘前）
若松近傍11（若松）15（高田）
奈良近傍6（田邊）京都近傍16（高槻）
五萬分一　靜岡1（御殿場）2（沼津）
山口12（小郡）釧路13（厩別）深浦2（岩館）仙臺16（赤湯）新庄9（淺舞）弘前4（田山）15（熊代）
五萬分一　朝鮮地形圖三面
尙州16（金泉）鐵原5（昌道里）16（連川）

近刊　五萬分一山岳圖

白馬岳立山近傍圖・槍岳、乘鞍岳近傍圖（昨年出版ノ訂正版）
白根山近傍圖・赤石岳近傍圖（五色刷新版南アルプス地圖）富士山近傍圖

案内人手帳

飛驒蒲田口案内人組合より最近本會へ、同組合員の携行する案内人手帖を寄贈して來た。

大體軍隊手帖と同じ形式のものである。内容は各自の住所姓名年齢欄あり、組合の規約、案内料金、案内人の心得等が十頁程印刷してある。その後の余白には一頁三段に別つて登山日數、コース及登山者の氏名等を記入する樣になつてゐる。此欄へは山へ一緒に行つた登山者より感想も書き加へられ度しとの意向である

案内手帖は蒲田の外に、甲斐山岳會で昨年作成し、南アルプスの一部の案内者に携行せしめてゐる事を聞いてゐる。兩者を比較した上で紹介する豫定であつたが、末着の爲、蒲田のものをこゝに紹介しておく。

會員通信

四月の上高地方面

去る四月中旬より五月初旬に亙つて、私は上高地、穂高小屋、槍肩の小屋、一の俣小屋等に泊つて、春の美しい山々に親しむ事が出來た。

今年の冬は初めの内は非常に天候不順であつて、雨なども屢々降り、降雪量も尠つたが、二月頃より大雪があつた爲に、四月に同地方に旅行した時はその雪の量の多いのに驚いた。一例を擧げれば、四月の廿日に澤渡より下流の梓川沿ひの道に雪のトンネルがあつた程である。中ノ湯の上のトンネルは未だ入口が雪で埋つており、上高地は一面の雪原であつた。穂高小屋は僅かに屋根の頭が見えるのみ、淵澤岳寄りの小屋等は全然場所も不明、堀出するのに二日間も要した。又槍澤の小屋等も屋根の一部を現してゐるのみで、あの雪崩防けの不愉快な柵などは存在もわからなかつた。

四月に入つて數回の多量の降雪のあつた關係もあらうけれど、三月の狀態と大差はない。又、春の雪崩の尠いのにも驚いた。私達の山にゐた間には涸澤も槍澤も、大きな府雪崩は出てゐなかつた、二日間降りつゞゐた雨で、涸澤に濕潤上層雪崩が一つ起つたのみである。飛驒の案内者達も首を傾げてゐた。穂高小屋の今田は今年の七月中は涸澤の岩小屋は雪で使へないだらうと豫想してゐる。そして又、殘雪の多い年は遭難が多いものだと案じてゐた。角　田

月山スキー行

四月の末、小閑を得て羽前の月山に出掛けた。同行は會員の田中管雄君。東北の山はまだ〳〵眞白だ。奥羽線から見た朝日連峯や月山の姿は暫く山に接しなかつた僕を喜ばせてくれた。山形から左澤線へ羽前高松から三山電鐵へそしてその終點間澤から志津迄五里の道をスキーを擔いで歩いた。月山澤の部落から上は全く雪の上を歩いた。志津の部落では殘雪が六七尺もあつた。志津に泊めて呉れる家があるかと心配していつたのだが、いつて見ると全戸數八戸の内六軒までが宿屋で而も夏期三山詣りの盛りどきには一軒に百人以上も泊るといふのだ。僕達は平野傳内といふ家に泊つた。山形高等學校の連中が六七人月山から歸つて來てゐた

翌日は志津から石跳川を湯殿山と姥ケ峯の鞍部まで溯つて、殆んど夏道の通り月山に登つた。見事なブナの深林を拔けて山の高みへ出てゆく氣分は中々いゝ。ひる頃から霙が降つて頂上では吹雪が舞つた。山頂の御宮は尾根が出てゐるだけだつた。眺望のきかないのは殘念だつたが風陰で慄えながらパンを嚙つてゐると眞冬のやうな氣持が嬉しかつた。歸りは姥ケ峯から尾根を傳つて玄海の上に滑り下りた。往路六時間半、歸路二時間。ザラメ雪にならない頃だつたら下りの時間は半減するだらうたゞ新雪がたび〳〵降る時分は石跳川の上の方は兩岸からの雪崩を余程注意する必要がありさうだ。

三日目は雨で籠城ときめてゐたのだが、ひる頃から霽れ模樣となつてきたので湯殿山の南西を絡んで田麥俣の方へ出やうとした。ところが青空の見えたのも束の間、玄海から西北方の尾根に達したときには一面の濃霧に包まれて了つたので殘念ながら引返した。一晝夜近くの降雨が上つて、この邊では晴天の徵とされてゐる西風が吹いてゐるのに忽ち天候が急變したのには尠からず驚いた。その日はズブ濡れのスキーをかついで本道寺の村まで戻つた。そしてその翌朝はやつと前日から通じたといふ乘合自動車に運ばれて三山電鐵の終點へ出た。

月山はいゝ山だ。雪の深い北國の山に特有の風趣をもつてゐる。僕達は志津から往復したゞけだが、頂上から見たところではどの尾根もスキーでの登降に適してゐるやうだから往路と歸路とを異にする行程をとつたならば更に興深いものがあらう。また湯殿山の西南に通じてゐる六十里越街道を辿つて、風俗言語に於て山形寄りの地とは全く異つた庄内地方へ越してゆく旅も面白いだらうと思はれる。

朝の七時から夜の八時まで乘物づくめで歸京する途中、もう少し東京から近いといゝなと思つたことだつた。五月三日　藤島敏男

新刊紹介

MYRTIL Schwarz: Et LA Montagne Conquit l'Homme. (Paris, 60f)

佛蘭西のG・H・Mの名譽會員である著者が山への情熱と、その該博なる知識とを傾けて、書いた本である。登山の發達史としては、恐らく近頃の一大收獲であらう。

登山の發達史を書く事は、非常に困難の事であり、殊にそれを系統立てる事は至難の業であるが、此の本もその點では稍〻失敗してゐる。併し歐洲アルプスに於て、登山史が如何に展開せられ來たつたかを知るには、最もよい本であらう。

それにギド・レイの若きアルピニストへの言葉が一章加へられてゐるのも、見逃せない所である。其他、アンリー・ブレゴールの序文も見るべきものであらう。

最後に添へられた、山に關する短い文章を集めたのも、嬉しい事の一つである。

H. Palmer and J. M. Thorington: A Climbers' Guide to the Rocky Mountains of Canada.

有名なカナデイアンロッキーの案内書の最新版が、刊行せられた。此の本の初版が、アルバータの征服の機緣を作つたのだと、思ふと我々にも懷しい本である。

此の二版は全部內容が書き改められてゐる。附錄の地圖と首つ引で、カナダの山々を樂しむのにもいゝ本である。

Edwin Muller: They climbed the Alps.

アルプス黃金時代の、有名な登山家の登攀を、夫々の著書に就て書き直したもので、非常によく出來てゐる。ウヰンパー、チンダル、マンメリー、ヤング等の人々の事を知り度い人達に、わざわざ原書を一つ一つ繙く迄もなく、此の本一册でよくその面影を彷彿さして呉れる。

誰もが知つてゐなければならない有名な登山史上の人達の事なのだから、中々便利で面白い讀み物と云へる。

編輯後記

會報も出來る丈け、毎月そして一定の期日に出したいと思つてはゐるが、思つてゐるだけで、中々其處迄は未だいかない。原稿の都合と、編者の時間の多少に依つて何時も不確實である。此の程度でも何か役に立つならば幸であるが、さもなければ考へ直さうと思つてゐる。御意見を聞かして戴き度い。

カメット登攀隊は、最近の報道に依れば、愈〻ベースキャンプへ向けて出發したとの事である。

獨乙からはアライバミールへ又登攀隊を送るとの事である。今度の目的の山は、同地方で一番高いガルモ(七五〇〇米)である。

獨墺山岳會は最近の會員數二十四萬五千人との事である。

又佛蘭西のG・H・Mは、今度フランス山岳會から獨立して一の團體となつた。之こそ將來のフランス山岳界を背負つてゆくものであらう。

世界の登山界の動きは、中々盛である。日本の登山界も少し考へて見度い。

最後に例のカンチエンジユンガ國際登攀隊が寫して來た活動寫眞が、公開されたらしい。英國山岳會の記す所に依ると、大分良心のない品物らしい。スイスのアルプスあたりでお芝居をやつて中に交ぜ込んであるとの事である。殊にジョンソンピークのあたりが怪しいとある。タイトルなぞでも大分嘘があるらしい。良心のない人達の仕事は困つたものである。スポーツと商賣との境が判らないらしい。

さう云へば、スマイスがその著書で批判した(手柔に)事が氣に入らないとあつて、ディーレンフルトが何かわいわい騷いでる。醜い事である。

夏山のシーズンも間近だ。今年は多幸なれと祈つて置く。

昭和六年六月十日印刷
昭和六年六月十五日發行
發行兼編輯人 浦松佐美太郎 東京市芝區琴平町一 不二屋ビル
發行所 日本山岳會會報編輯所
(所刷印堂明開)

「山岳」バツクナンバー改正定價

Vol,	No.	改正定價	(舊定價)	送料
II	3	2.00		6
III	3	2.00		〃
IV	1	2·00		〃
〃	2	2.00		〃
〃	3	2.00		〃
V	2	1.00	(1.50)	8
〃	3	1.00	(1.50)	〃
VI	1	1.00	(1.50)	〃
〃	2	70	(1.50)	〃
〃	3	70	(1.50)	〃
VII	1	1.00	(1.50)	〃
〃	2	1.00	(1.50)	〃
〃	3	1.00	(1·50)	〃
VIII	1	70	(1.50)	〃
〃	2	70	(1.50)	〃
〃	3	70	(1.50)	〃
IX	1	70	(1.50)	〃
〃	2	70	(1.50)	〃
〃	3	70	(1.50)	〃
X	2	1.00	(1.50)	〃
XI	2	1.00	(1.50)	〃
XIV	1	50	(1.50)	〃
〃	2	50	(1.50)	〃
〃	3	50	(1.50)	〃
XV	1	50	(1.50)	6
〃	2	50	(1.50)	〃
〃	3 a	50	(1.50)	〃
XVI	1	50	(1.50)	8
〃	2	50	(1.50)	〃
〃	3	50	(2.50)	〃
XVII	1	50	(1.50)	6
〃	2	50	(1·50)	〃
〃	3	50	(1.50)	〃
XVIII	1	50	(1.50)	〃
〃	2	50	(1.50)	〃
〃	3	50	(1.50)	〃
XIX	2 b	50	(1.20)	〃
〃	3	50	(1.20)	〃
XX	2	50	(1.20)	〃
XXI	2 c	50	(2.50)	8
〃	3	50	(1.20)	〃
XXII	1 d	50	(2.50)	〃
XXIII	2 e	50	(2.50)	〃
〃	3 f	50	(2.50)	〃

a, 奥上州號。b, 朝鮮金剛山號。
c, 黑部號。d, 第二奥羽號。
e, 山岳縞目錄付。f,臺灣號。

美津濃の登山靴とリックサック

山行に最も大切な完全無缺のアマハーモデルの登山靴やキスリングモデルリックサック等常に豐富に取揃へてございます。

登山靴 ¥10.00……¥22.00

リックサック

¥3.50……¥11.50

大阪　淀屋橋
東京　小川町
神戸　元町通

美津濃

名古屋　大須門前
京都　四條大通
大阪南　日本橋

理學博士 武田久吉
理學士 田邊和雄 共編

高山植物寫眞圖聚

壹卷 貳百枚

高山植物に關する知識の欲求が年を逐うて旺になりつゝある今日、高山植物の眞相、殊にその生育の狀態や生育地の情況は、未だ世に紹介せられたもののある事を聞きません。こゝに於て、弊書房は本邦高山植物學界の權威者である武田博士、田邊學士に乞うて著者が多年本邦各地の高山に於て撮影せられました寫眞に解說を附して刊行する事と致しました。この寫眞の質の眞價や鮮麗さはあらためて弊書房の吹々を要さないものであります。

諸家の御淸鑑を仰ぐ事が出來ますれば幸甚に存じます。

豫約會員募集

頒布規定

體裁　菊倍判一面刷用紙アートポスト解說菊判上質紙

會費　一時拂金貳拾圓(送料共)
分割拂金貳圓(送料六錢)

豫約期限後は各輯　金二圓五十錢にて頒つ(送料六錢)

頒布方法　貳拾枚宛(解說付)毎月或は隔月發行頒布拾回を以て完了

附錄　高山植物概說・索引を、第十回配本に同包す。

帙　一時拂會員には第二回配本と同時に進呈
分割拂込會員にして御希望の方には實費金壹圓にて頒つ

締切　六月十日

完刊後は賣價　金貳拾五圓(帙入)
送料は逐て定む

第一回配本 六月上旬

發兌　東京神田駿河臺北甲賀町四番地　梓書房(あづさ)　電話神田二七七五番　振替東京七八六四四番